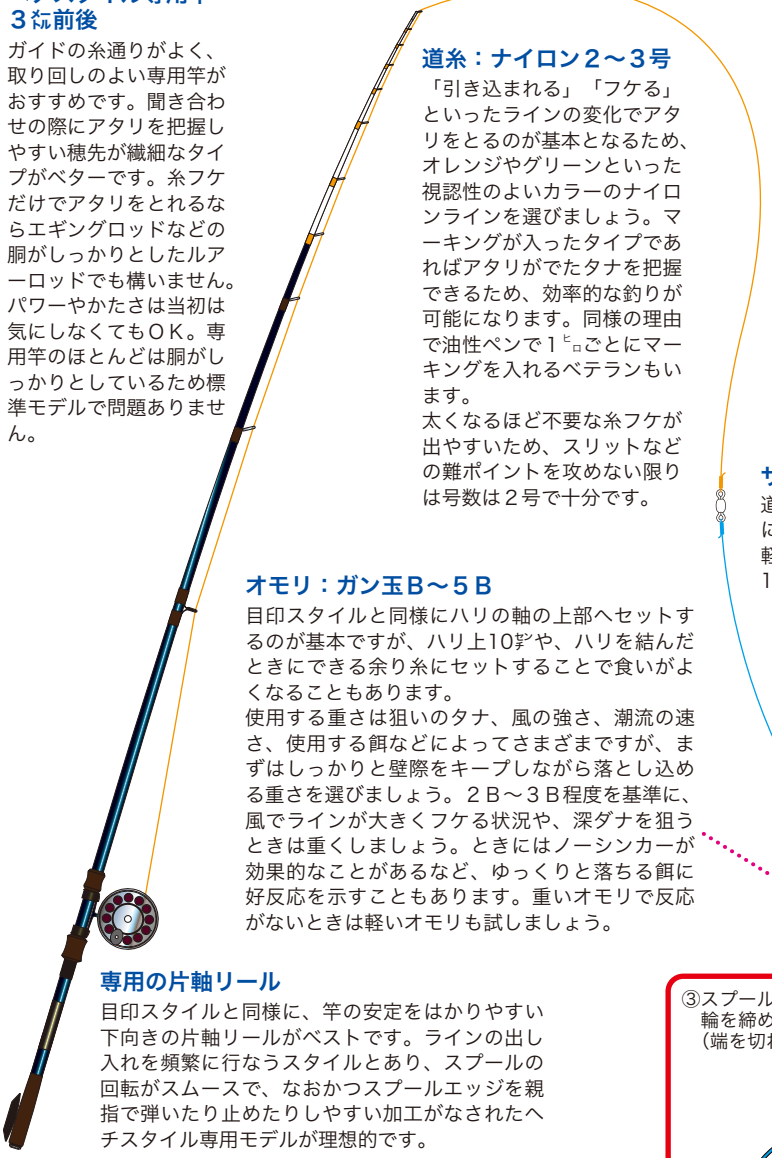
# ②ヘチスタイル

**道糸、サルカン、ハリス、ハリのみを使用したシンプルな仕掛けを用いたスタイルです。目印仕掛けの制約がないぶん、幅広い層をカバーできるという特徴があります。低水温によって底層で定位しているチヌにもアプローチできることからオールシーズン対応のパターンといえます。**
**目印スタイルと違って、アタリは基本的に糸フケの変化でとります。それに難しさを感じるかもしれませんが、高活性が期待できる状況なら引ったくるアタリを見せることもあるから心配は無用。アタリがでる確率を増やす気持ちで積極的に餌を落としましょう。**



## ヘチスタイル専用竿 3㍍前後

ガイドの糸通りがよく、取り回しのよい専用竿がおすすめです。聞き合わせの際にアタリを把握しやすい穂先が繊細なタイプがベターです。糸フケだけでアタリをとれるならエギングロッドなどの胴がしっかりとしたルアーロッドでも構いません。パワーやかたさは当初は気にしなくてもＯＫ。専用竿のほとんどは胴がしっかりとしているため標準モデルで問題ありません。

## 道糸：ナイロン２～３号

「引き込まれる」「フケる」といったラインの変化でアタリをとるのが基本となるため、オレンジやグリーンといった視認性のよいカラーのナイロンラインを選びましょう。マーキングが入ったタイプであればアタリがでたタナを把握できるため、効率的な釣りが可能になります。同様の理由で油性ペンで１㍍ごとにマーキングを入れるベテランもいます。
太くなるほど不要な糸フケが出やすいため、スリットなどの難ポイントを攻めない限りは号数は２号で十分です。

## サルカン

道糸とハリスを接続するために使用します。回収時に起こる餌の回転によって発生するラインのヨレを軽減できます。仕掛けの落下姿勢を妨げないように10～12号程度の小型を選択しましょう。

## オモリ：ガン玉Ｂ～５Ｂ

目印スタイルと同様にハリの軸の上部へセットするのが基本ですが、ハリ上10㌢や、ハリを結んだときにできる余り糸にセットすることで食いがよくなることもあります。
使用する重さは狙いのタナ、風の強さ、潮流の速さ、使用する餌などによってさまざまですが、まずはしっかりと壁際をキープしながら落とし込める重さを選びましょう。２Ｂ～３Ｂ程度を基準に、風でラインが大きくフケる状況や、深ダナを狙うときは重くしましょう。ときにはノーシンカーが効果的なことがあるなど、ゆっくりと落ちる餌に好反応を示すこともあります。重いオモリで反応がないときは軽いオモリも試しましょう。

## ハリス：フロロ２～３号0.5～１㍍

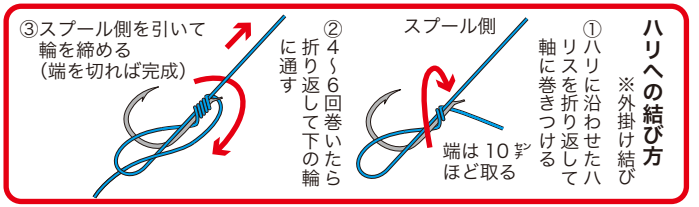
２号が標準ですが、竿の強さを生かしてスリットなどの難ポイントを攻めるなら2.5～３号を使用しましょう。餌とオモリの自重で張りが生まれるため長め（１㍍）に取ることも可能です。

## ハリ：チヌバリ２～５号、伊勢尼６～10号

目印スタイルと同様です。

## 専用の片軸リール

目印スタイルと同様に、竿の安定をはかりやすい下向きの片軸リールがベストです。ラインの出し入れを頻繁に行なうスタイルとあり、スプールの回転がスムースで、なおかつスプールエッジを親指で弾いたり止めたりしやすい加工がなされたヘチスタイル専用モデルが理想的です。

## ハリへの結び方

※外掛け結び